

今ある仕事は国外に流れる 若なき国際競争の波

コメント／橋本淳司 ジャーナリスト



『フラット化する世界(上)(下)』

トーマス・フリードマン／著 伏見威著／訳
1995円(税込み) 日本経済新聞社

数年後の日本社会から消える仕事がある。本書を読み、自分の仕事も恐らく……と不安に襲われた。タイトルの「フラット化」とは、世界経済が国境を超え「共同作業の場」に変化することを意味する。これまで、工場等の生産拠点は、高い技術と安い人件費を求めて世界各地を移動してきた。それと同じように、知的生産の場も通信技術や物流の革新により、場所を移動するようになったという。

いとされていた。しかし、インドのバンガロールでは、米企業のコールセンターがあり、電話を掛けてきた米国人にインド人の担当者がパソコンの使い方を教えているという。また、別の小さな会計事務所では、米国人用の納税申告書を作成することも行われている。国境が取り払われ、アウトソーシングされる仕事の幅が急速に拡大している。本書は、知的産業を諸外国に奪われる米社会に警鐘を鳴らしている。ならば米国の後ろを行く日本はどうなるのか。対策を打たなければ、日本からあらゆる仕事が消えてしまうだろう。

TOPPのための情報源

著者はダイエー再生プランをこう断言する。いい物をより安く、という理念を掲げた創業の原点に戻って、トップダウンや男性管理職主導による紋切り型のマーチャンダイジング・店舗オペレーションを改め、プロの消費者である女性により思い切つたりフレッシュを断行する。この手法は、著者自身が経営破綻した老舗・洋菓子のヒロタをわずか3年で再生させた際に実行したスキーム。今後の経営のカギを握る「女性消費者の視点」の必要性を問いかける。

『ダイエーを私に売ってください』

広野道子／著
1365円(税込み) 徳間書店



再建に必要なのは
プロの消費者視点

神主経営者が語る 街興しの流儀

『神主さんがなぜプロサッカー チームの経営をするのか』

池田弘／著
1575円(税込み) 東洋経済新報社

プロサッカーチーム新潟アルビレックスや専門学校・新潟総合学院を経営しているのは、地元の新社の神主。そもそも神社は地域発展を祈る場、宮司は地域住民の幸せを願う存在である。神社の求心力が低下していく中で、著者が地域発展のために起こしたのが教育事業であり、神社に代わる精神的な核の場としてつくったのが、アルビレックス新潟であった。事業で上げた利益は地域に再投下。地元の若手起業家も支援する。ユニークな地域再生実践物語。